



今月のテーマ 「転倒・転落事故への対応策～物的対策編～」

今月は、転倒・転落事故への対応策として採用されている様々な「物的対策」を紹介します！

どんなツールがあって、どのように使われているのでしょうか？

「物的対策」は、対応に限界がある人的対策の補助ツールとして、様々なものがありますが、目的により「事故による傷害を軽減するツール」と「事故を未然に防止するツール」に分けられます。それぞれの代表的なツールを紹介していきましょう。



事故による傷害を軽減するツール

低床ベッド

目的：ベッドからの転落による傷害の軽減

特徴：通常のベッドより床高が低いので、端坐位がとりやすく、離床の促進と転落時の衝撃を軽減する効果があります。

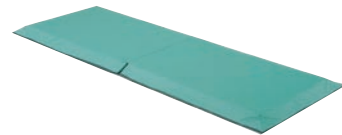


画像：パラマウントベッド株式会社『メーティスシリーズ』

衝撃緩和マット

目的：ベッドサイドなどでの転倒・転落時の衝撃緩和

特徴：衝撃吸収性に優れたウレタンフォーム製でベッドからの転落およびベッドサイドでの転倒時の衝撃を緩和します。低床ベッド、離床センサーなどと併用するとより効果的です。



画像：パラマウントベッド株式会社『テストール』

ヒッププロテクター

目的：転倒時の大腿部への衝撃緩和

特徴：側面に大腿骨を保護するパッドが付いており、転倒時の衝撃を緩和し、骨折を防止する効果があります。最近では、履き心地、デザインに配慮した商品も増えています。



画像：テルモ株式会社『マモリーナ』

ヘッドガード

目的：転倒時の頭部への衝撃緩和

特徴：衝撃吸収材で作られており、転倒時の頭部への衝撃を緩和し、深刻な怪我を防止する効果があります。

以前はヘッドギアタイプが主流でしたが、最近ではデザインに配慮した商品も増えてきました。



画像：キヨタ株式会社『おでかけヘッドガード』



事故を未然に防止するツール

転倒予防シューズ

目的：歩行時の転倒防止

特徴：脱げにくい、すべりにくい、ひっかかりにくい構造になっており、歩行時の転倒を防止する効果があります。
離床センサーなどと併用するとより効果的です。



画像：竹虎株式会社『転倒予防シューズ』

離床センサー

**目的：特定行動の報知による転倒・転落防止
転倒・転落事故の早期発見**

特徴：対象者の動きをセンサーが感知して知らせる事で、抑制をしない未然防止ツールとして病院、高齢者施設などに広く普及しています。「事故による障害を軽減するツール」と併用される事も多く、目的や対象者によってセンサーのタイプや報知方法に様々なバリエーションがあります。
テクノスジャパンでは、従来品より安全性・利便性に優れ、故障頻度が少ない「コードレスタイプ」をご用意しています。



『コールマット・コードレス』



『ベッドコール・コードレス』

画像：株式会社テクノスジャパン

監視モニターシステム

目的：行動監視による転倒・転落防止

特徴：監視カメラにより対象者の動きを知り、事故を未然に防止するツールです。
人権への配慮、コストなどからあまり普及していないようです。



画像：株式会社ビッグバン『Net16』

2回にわたり、「転倒・転落事故への対応策」を紹介しましたがいかがでしたか。
事故を未然に防止し、事故の影響を最小限にするためには、対象者の転倒・転落リスクを知り、人的対策と物的対策を効果的に組み合わせる事が重要です！



来月のテーマ

「第39回 国際福祉機器展 H.C.R.2012 出展報告」です！ご期待ください。